

ポラリス(北極星)を目指すには
北極星を見つけること。
目指すところ(方向)は一緒でも
やり方はそれぞれ多種多様。
一人一人の思いをエッセイの形で
伝えたい。



新年のご挨拶

常務理事・事務部長 正木 和生



新年おめでとうございます。今年も皆様にとって幸多き年となりますことをお祈りいたします。

さて、今年の干支である午(うま)は古来より「俊敏さ」「勢い」「成長」「活発」を象徴する存在とされ、午年は「勢いがありスピード感がある」「変化が加速する」「成長を後押しする」年などと言われています。

7割の病院が赤字経営と報道されている医療業界にとっては、これまで以上に『変革』が求められる1年となりそうです。

また、馬(うま)といえば、昨年は「ザ・ロイヤルファミリー」という競馬界を舞台としたテレビドラマが放映され、多くの皆さんもご覧になったことと思います。かれこれ40年以上も前になりますが、日高の明和牧場に名馬ハイセイコーを訪ねたことがある私にとってはドンピシャのドラマで、競走馬と人による血の『継承』の物語に毎週目頭を熱くしていました。

ということで少々こじ付けが過ぎますが、私はこの一年は『変革』と『継承』を念頭に、無い知恵を絞りながら仕事に取り組んでいこうと新年の誓いを立てました。

どうか職員の皆さんもひとりひとりが創造力を発揮することにより、様々な課題を解決していく年にしていいただければと願っています。

最後になりましたが、今年も宜しくお願いいたします。





午年職員

50音順

今年の

在宅サービス部 石倉 郁

昨年春に入職し、あっという間に1年が経とうとしています。訪問看護という新しい分野に飛び込み、大きく環境が変化した1年でした。

訪問看護に転職し1番良かったことは、地域で生活する利用者様のこれまでの人生や生活環境を知り、家族様との関わりを通して多方面からどのようなケアが必要か考えるようになったことです。まだまだ経験不足で知らないことばかりですので、今年は訪問看護師として多くの事を学び成長できる年にしたいと思います。



看護部 井上 明子

新年おけましておめでとうございます。入職して20年以上経ち、年々健康に気を遣う年代となりました。今年は健康に気をつけ、充実した1年を過ごしたいと思います。今年もよろしくお願ひします。



医療相談部 金田 直樹

明けましておめでとうございます。私事ですが、我が家では昨年に犬を飼ひ始めました。天候の悪い時を除いて1日2回散歩するのが日課となっています。運動習慣を取り入れたはずですが、体重は変わらず早寝早起きの習慣が身についただけです。この習慣を続けて健康体を維持していきたいと思います。今年もよろしくお願ひします。



看護部 井上 美智

我が家には9歳と1歳の2匹の柴犬がいます。家や家具を破壊され続ける日々ですが、2匹が駆けまわったりプロレスごっこをしたりして遊ぶ姿はとても幸せな気持ちにさせてくれます。今年も愛犬たちが健康で楽しく暮らせるように体調管理とお出かけなどの企画をしようと思います。



診療部 田原 明奈

明けましておめでとうございます。入職して8年が経ちました。日々が過ぎるのがあっという間に感じますが、健康で過ごせることに感謝して毎日を送りたいです。

仕事では自分にできる事を精一杯取り組んでいきたいと思っています。



抱負



看護部 原田 絵里

2025年はリフレッシュの年でした。5月に猫を飼い始め心が癒され、8月に犬を飼い始め運動量が増え身体が癒されました。2026年は引き続き癒されつつ、近年活字離れしていたので読み書きに挑戦したいと思います。



診療部 松近 由佳

あけましておめでとうございませう。

月日の流れが早く、もう1年が終わるのかと年を重ねるごとに強く感じています。

鹿島病院に入職して8年、給食調理の道に進んで18年が経ちました。

今年も皆様に「元気のでるおいしい食事」を届けられるよう、仕事に取り組みたいと思います。謙虚な気持ちを忘れず、健康に気をつけて1年を過ごしたいです。

今年もよろしくお願ひします。



看護部 松本 裕子

新年の抱負は、体に悪影響のある習慣をやめ、毎日しっかりと睡眠を確保し、体調管理には十分気を遣うことです。健康的な生活を送りたいと思います。



リハビリテーション部 山本 柊太

今年の抱負は「健康第一、毎日を大切に美りのある1年にする」ことです。

忙しい時でも体調管理をおろそかにせず、仕事も私生活も無理のないペースを意識したいと思います。また、

日々の業務一つ一つにも目的をもって取り組み、小さな達成を積み重ねていきたいです。気づけば体調を崩していたという事態を防ぐためにも心身ともに良い状態で、今年は良かったと言えるよう前向きに1年を駆け抜けたしたいと思います。今年もよろしくお願ひします。



看護部 山道 高行

昨年は転倒予防指導士の資格を取得しました。

今年は取得した資格を活かせるように自己研鑽し、入院中はもちろんです。退院された後も転ばずに生活ができるようにお手伝いできればと思います。



～変わりゆく制度と、変わらぬ「尊厳」への想い～

医療相談部 社会福祉士 小林 裕恵

私が鹿島病院で医療相談員として勤務を始めたのは平成15年のことでした。以降、医療・介護の現場は「病院完結型」から「地域完結型」へと大きく舵を切りました。この大きな時代の節目に、これまでを振り返り、これからについて少しお伝えしたいと思います。

・「つなぐ」仕組みから「地域で共に生きる」仕組みへ

医療法は1948年の制定以来、社会の変化に応じて改正を重ねてきました。平成29年に当院に「地域包括ケア病床」が開設されたことは、大きな転換点でした。入院期間が原則60日以内と定められる中で、私たちは「生活の場へどうつなぐか」をより真剣に模索するようになったのです。

現在、この「つなぐ」形はさらに進化しています。急性期病院とは「まめねっと」を活用し、保健所等の機関とはWEB会議で顔の見える関係を維持し、また「松北地区地域包括ケア実行委員会」では、職種の垣根を越えて看取りや災害対策を学び、地域全体について考える仕組みを作ろうという機運が高まっています。今後は2040年を見据え、医療・福祉の枠を超えて住民一人ひとりが支え手側にもなる「地域共生社会」の実現をといわれています。単なる連携を超えた、より重層的なネットワークが求められています。

・リハビリの本質——「生き方」への敬意

制度が高度化・複雑化する中でも、私たちの原点は常に「人」にあります。10年前、ある高齢のご夫妻を担当しました。嚥下障害のある奥様に対し、90歳近いご主人は「最期は家で」と決断されました。ご主人が必死に介護技術を習得され、自宅で穏やかな時間を全うされた姿は、今も忘れられません。

免疫学者の多田富雄氏は「リハビリは単なる機能回復ではない。人間の尊厳の回復である」と述べています。あの時間は、お二人がお二人らしく在るための「尊厳」の証明でした。昨今、ACP（人生の最終段階における意思決定支援）の重要性が叫ばれますが、それは書類上の手続きではありません。たとえ認知症が進んでも、その方の「声なき声」を汲み取ることこそが、私たち専門職の役割だと思います。

・結びに代えて：新たな「医療縁」を次代へ

私たちは今、少子高齢化という厳しい現実と直面しています。だからこそ、テクノロジーを賢く使いながら、一方で対面での「心の交流」を深めていく必要があります。

時代が変わろうとも、当院が大切にしてきた「一人ひとりの尊厳を守る」という信念は、これからも変わることなく引き継がれていくと思います。



回復期リハビリテーション 病棟協会第47回研究大会in米子

リハビリテーション部 今田 桂子

2026年2月6日、7日に米子コンベンションセンター BiGSHiP、米子市文化ホールで行われた「回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子」に参加してきました。

当院からは3演題の発表と、座長も務めさせていただきました。

私は「QOL・心理・コミュニケーション」のセッションで座長を担当しました。

緊張の中での進行でしたが、発表者の熱意や様々な視点からの意見交換に学会ならではの学びの深さを感じました。機能回復だけでなく心理面や家族支援まで包括的に捉える視点の重要性について発表されている方も多く貴重な経験をさせていただきました。今回学んだ事を日々の臨床に活かし、一人ひとりの思いに寄り添える作業療法を実践していきたいと思います。



【口述発表】

「FLSを地域や生活期で連携・継続する上で重要な情報提供について」

発表者：リ八部 理学療法士 川島 淳

「当院回復期リハビリテーション病棟における転倒件数の減少に向けた取り組み」

発表者：リ八部 理学療法士 米田 樹

【ポスター発表】

「回復期リハビリテーション病棟における入院上限を超えるケースについて」

～当院の症例を通してみえた課題～

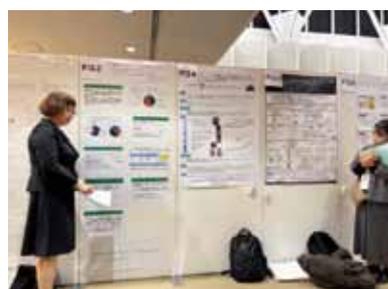
発表者：医療相談部 亀山 庸子

【座長】

看護部 小村和美

リ八部 理学療法士 岩田知穂

リ八部 作業療法士 今田桂子





穏やかな気持ちで家族を支えたい

認知症看護認定看護師 喜井 亜祐子

まずはじめに。前回の「ときめき鹿島」で初めて自己紹介をして、私のイラストを載せてもらいました。とても好評で、これまでにないほど多くの感想をいただきました。松江市内の開業医さんや出雲市の病院の方からも声をかけていただき、驚きとありがたい気持ちでいっぱいです。前回の「ときめき鹿島」が出て、認知症ケアについてではなく、美容についての相談が増えました。皆様にとってもっと有用な情報を発信できるよう、これからも認知症ケアと美容の勉強を頑張ろうと思います。

自己紹介についての補足です。前回の記事で修正した内容が反映されていなかったなので、ここで訂正させてください。○→『趣味：美容、特技：認知症ケアを考える』ちなみに、自己紹介について質問が多かったのが、嫌いなこと：運動・筋トレ・ストレッチについてでした。嫌いですが、筋トレとストレッチはできる範囲でやっています。年齢を重ねていくにつれ心配なことも増えてきたので、将来の転倒予防になる程度のことはするようにしています。

それでは今号のテーマについてです。家族に対して穏やかに接するためにはどうしたら良いかという相談をいただきました。相談者の方は、90歳代のお母様の介護をしておられます。食事と排泄動作は自立しておられるようです。お母様は間違いを認めにくい性格とのことでした。

何度かときめき鹿島の中で、私の父の話をお伝えしてきました。何度も同じことを言う父に対して苛立つこともありましたが、最近は穏やかに父の話を聞くことができるようになってきました。家族とは喧嘩をしたりぶつかってしまっても関

係が壊れないものだとは私は思っています。だからたまには喧嘩をしても良いと思います（これは私の考えで、様々な考え方があると思います）。認知症の人は自ら望んで認知症になっているわけではありません。たくさん不安や辛い想いを抱えていると思います。私の父は「ぼけてしまった。またわからんようになった」と会うたびに、悲しそうな顔をして話します。毎月2回実家に帰って父に会うようにしていますが、「1年に1回しか会えんなあ。淋しいなあ」と毎回言います。父は絵に描いたような亭主関白な人なので、これまで弱音を吐くことは一度もありませんでした。よほど不安や淋しさを感じているのだと思います。それをまず理解することが大事だと思いました。どうしたら穏やかに接することができるかという相談に対して、私は父と一緒に暮らしているわけではないので、介護をしておられる方の変さを十分に理解しきれていないかもしれません。感情の話になってしまうので、こうしたら良いですというのをお伝えすることが難しいのですが、これを読んで少しでも参考になれば嬉しいです。具体的なお困りごとなどあれば、またご相談いただくと、もっと細かく対応方法などをお伝えできるかと思いません。※相談者の方の許可を得て、相談内容を公開しています。

認知症の人を支えておられる家族を支えるために、認知症看護認定看護師などの専門職があり、多くの社会資源があります。それらを活用して、介護する方の心に少しでも余裕ができれば、穏やかに楽しんで介護ができるかもしれません。今回この相談を受け、認知症の家族を支えている方々のYouTubeやその他のSNSをみてみました。楽しく介護をしておられる方もいれば、大変な様子を赤裸々に公開している方もおられました。楽しく介護をしておられる方は、おそらくそこに至るまでに様々なご苦労があったのだと思います。そういったSNSを活用することで、解決のヒントが見つかることもあるかもしれません。令和5年春号でご紹介したYouTube『認知症ポジティブおばあちゃん』も面白いのでぜひ観てみてください。



研 修 医 地 域 医 療 研 修 を 終 え て

松江市立病院 2年次 研修医 佐々木 一帆

地域医療研修として鹿島病院での1ヶ月間、大変お世話になりました。

急性期病院では「病気の治療」が最優先されますが、今回の研修を通じて、患者さんが住み慣れた地域や自宅に戻るための「生活の再構築」を支えることの重要性を感じることができました。

特に印象に残ったのは、入院時、入院中、退院前と節目ごとに開催される多職種カンファレンスです。医師だけでなく、看護師、リハビリスタッフ、MSWがそれぞれの専門性を活かして意見を出し合い、患者さん一人ひとりのゴールに向かって一丸となる姿に、チーム医療のあるべき姿を学びました。

また、訪問診療や訪問看護にも同行させていただき、退院後の実際の生活環境を知ることによって、入院中に行うべき支援の具体像がより明確になりました。現場で患者さんの生活背景に触れ、患者さんやご家族の視点に立つことの重要性を改めて実感しました。

今回の研修で学んだことを今後の医師人生においても大切にしていきたいと思います。温かくご指導いただいた先生方、スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。



第88回島根県病院対抗バレーボール大会に出場しました。



リハビリテーション部 藤原 法文

令和7年11月22日(土)出雲だんだんとまとアリーナで開催された第88回島根県病院対抗バレーボール大会に出場しました。県内から男子12チーム、女子8チームが参加し熱戦が繰り広げられ、当院からは男子の部に男女ミックスで参加しました。コロナ禍以降、職員同士の交流が希薄になりがちですが、定期的なサークル活動を通じてチームワークを高め臨みました。新たなメンバーも加わり健闘しましたが、1勝1敗で予選敗退となりました。来年は男女それぞれで出場し、勝利することが出来るように頑張ります。

応援ありがとうございました。



試合結果

予選

VS 安来第一病院 0-2 敗退

VS 出雲市立総合医療センター 1-1 得失点差で勝利

予選敗退



NEWS

新入職員を紹介します

50音順

- ①部署・職種 ②趣味・特技は何ですか？
- ③好きなもの・好きなことを教えてください。
- ④一言ご挨拶をお願いします。

太田 綾

- ①看護部3階回復期病棟 看護師
- ②趣味：料理
- 特技：体が柔らかいこと
- ③食べること
- ④早く病棟に慣れるように頑張ります。よろしくお願いします。

田中 千代

- ①看護部2階病棟・看護師
- ②歌を歌うこと(カラオケ)
- ③ショッピング・カラオケ
- ④昨年7月末に体調不良で退職し、この度、体調も落ちつき、また新たな気持ちで再就職させて頂きました。自分のスキルを活かしながら業務に貢献していきたいと考えています。よろしくお願いします。

宮本 修豊

- ①看護部3階病棟 介護福祉士
- ②ゲーム、UFOキャッチャー
- ③アニメ、マンガ、おいしい物を食べる事
- ④一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。

令和8年 永年勤続表彰

勤続30年 野田以登子
 勤続15年 前田 拓郎
 曾田 良平
 武藤 貴広
 勤続10年 亀山 庸子
 勤続5年 藤崎 優衣
 森脇 由梨
 新宮由紀恵
 吉岡由佳里
 松本 朱未

森山 彩夏
 青山 善一
 福田 容子
 石倉 弘美
 角田 智徳
 熊谷 愛美
 江藤里緒菜
 江角 歩



公人会事業報告 (R7年10月~R7年12月)

延べ入院患者数=24時現在入院 延べ外来患者数=外来実日数

鹿島病院 ①外来

(診療日数64日)	1日平均患者数
延べ外来患者数	839人 13.1人/日

②病棟 2F特殊疾患病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	5,118人 55.6人/日
レスピレーター装着延べ患者数	1,112人 12.0人/日
①脊髄損傷等の重度障害	551人 5.9人/日
②重度意識障害	1,910人 20.7人/日
③神経難病	2,077人 22.5人/日
④筋ジストロフィー	0人 0.0人/日
3か月間の特殊疾患対象患者割合	89.2%
3か月間の特殊疾患対象患者割合=1日平均対象患者数÷1日平均入院患者数	

3F回復期リハ病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	4,291人 46.6人/日
回復期リハ病棟対象患者割合	99.0%
平均リハ提供単位数	6.8

患者重症度指数 強化項目 リハビリ数

直近6か月間の新規入院患者	重症者の割合	116人 51.7%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合		85.7%
直近6か月間の重症改善率		68.5%
直近6か月間のアウトカム実績指数		50.6点

4F療養病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,331人 25.3人/日
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合	91.0%
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合=レセプト実績日数	
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合(4F全体)	86.2%

4F地域包括ケア病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,618人 28.4人/日
A・C項目患者の割合	13.9%
平均リハ提供単位数	2.5
直近3か月間の自宅等から入院した患者の割合	26.3%
直近3か月間の自宅等からの緊急入院受け入れ数	15人
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	80.3%

在宅サービス部

①通所リハビリ“やまゆり”

(稼働日数77日)	1日平均利用者数
通所リハビリ延べ利用者数	401人 5.2人/日
短期集中リハビリ実施数	979単位 12.7単位/日

②訪問リハビリ“つばさ”

(稼働日数61日)	1日平均利用者数
訪問リハビリ延べ利用者数	22人 0.4人/日
訪問リハビリ延べ単位数	44単位 .7単位/日

③訪問看護“いつくしみ”

(稼働日数61日)	1日平均利用者数
訪問看護延べ利用者数(医療)	158人 2.6人/日
訪問看護延べ利用者数(介護)	618人 10.1人/日
訪問看護延べ利用者数(リハビリ)	259人 4.2人/日

④鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

(稼働日数61日)	月平均策定数
延べケアプラン策定数	307人 102.3人/月
延べ介護予防ケアプラン数	175人 58.3人/月





医療法人財団公仁会中期ビジョン2025

医療・介護が一体となり、リハビリテーションを柱としたサービスを展開し、急性期病院をはじめとする医療機関・介護事業所・行政機関との連携を軸に、橋北地区の地域包括システムを支える。

<ビジョン策定の主旨>

橋北地区における地域包括ケアシステムの中核病院として、入院・外来医療と介護サービスの質の向上と継続的提供のため中期ビジョンを策定する。

<本計画の期間>

この計画は2025年4月から2028年3月までの3年間の期間とする。

1. 良質な回復期・慢性期医療

(1)回復期医療

回復期リハビリ病棟と地域包括ケア病床でのリハビリテーションの更なる充実と外来リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリの密な連携により地域の回復期医療を担っていく。

(2)慢性期医療

特殊疾患病棟・医療療養病棟で長期入院を要する患者に対し、地域包括ケア病床で高齢患者に準急性期医療を提供することで地域の慢性期医療を担う。

(3)質の高いリハビリテーション

リハビリ療法士の数的充足のみでなく個々の療法士の質的向上を図り、医療機関との連携を図る。

(4)外来・訪問診療

訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、通所リハビリとの連携で外来診療・訪問診療を効果的に運営する。

2. 在宅生活を支える医療・介護

(1)良質な在宅医療

患者にとって「安心を支える在宅医療」を促進するため、外来・訪問診療と訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所との連携を一層進める。

(2)良質な在宅支援サービス

在宅サービス部門が一体となり、利用者目線での質の高いサービスの提供を目指す。

3. 地域連携・地域貢献

(1)病病連携、病診連携、地域連携（県・市・保険・福祉・介護・地区）

松江圏域の医療連携協定や介護保険施設との連携、その他の多方面との連携により、安心で安全な地域完結型医療の実現を目指す。

(2)予防医療や介護技術を地域へ普及

地域住民への啓発活動や医療・介護関連職種向けの勉強会を通じて、地域に積極的に知識を還元する。

(3)地域への情報発信

病院の機能や在宅サービス機能、治療成績、行事等

についてホームページや広報誌等を活用して、積極的に情報発信を行い、公仁会のブランド力を高める。

4. 医療安全・院内感染対策

(1)医療安全

医療・介護サービスを提供する全ての方へ医療安全を担保することは前提条件であり、日常から緊張感をもって業務改善に努める。

(2)院内感染対策

院内感染防止対策委員会の活動充実に加え、感染管理認定看護師を配置することにより、感染防止と予防教育のレベルアップを図る。

5. 医療サービスの質の改善

(1)委員会活動の活性化

委員会活動をはじめとする院内の横断的組織活動を活性化させ、より深化した改善活動を実践する。

(2)臨床指標（Clinical Indicator）の活用

当院のアウトカムである在宅患者受入率や在宅復帰率、リハ効率、医療区分割合、医療看護必要度、訪問看護必要度、訪問診療回数などを院外に積極的に発信していく。

(3)患者満足度向上の組織的取組み

苦情・要望に対する真摯な対応によりサービスの改善を図り、組織の成長につながる対策を講じていく。

(4)施設・設備・環境の整備と充実

患者のQOLに資すること、並びに職員の働きやすい環境の整備を計画的に進める。

6. 人材の育成と確保

(1)人材の育成

院内研究の活性化や積極的に外部研修派遣を行い、次代を担う人材の育成を図る。

(2)人材の確保

外国人労働者の採用等、採用の多様化を進めることで病院の安定運営に必要な人材を確保する。

(3)働きやすい環境の整備

従業員エンゲージメントの向上につながる働きやすい職場・働き甲斐のある職場を目指す。

(4)学生の受入れ

学生実習の積極的受入れを行い職員のレベルアップを促すとともに、採用機会を増やす取組みを行う。

7. 医療DXの推進とスキルアップ

電子カルテの更新を円滑に行うとともに、業務の省力化と職員のスキルアップを進めることで生産性の向上を図っていく。

編集後記

今年はいじめでの発行となります。今年はずっと明け間もなく1月6日火曜日10時18分頃震度5強の地震に見舞われました。その後も震度4、震度3程度の余震も続きました。

鳥取西部地震から25年経過し改めて防災意識について再確認する機会となりました。

今年も「ときめき鹿島」をよろしくお願いいたします。

広報委員会 一同



■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1
<http://www.kashima-hosp.or.jp/>

鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221
訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL(0852)82-2640
やまゆり居宅介護支援事業所 TEL(0852)82-2645
通所リハビリテーション(やまゆり) TEL(0852)82-2637
訪問リハビリテーション(つばさ) TEL(0852)82-2637

■印刷元 柏村印刷株式会社